

<http://www.namiki-masatoshi.com/>

討議資料

なみき
並木まさとし



ナイスショット通信 第50号

発行者 埼玉県議会議員 並木正年 〒365-0038 鴻巣市本町3-2-19-B
TEL 048-541-7777 FAX 048-543-8000 namikimasatoshi@soleil.ocn.ne.jp

埼玉県教育局は大阪北部地震において小学校のブロック塀が倒壊した事故を受けて、県立学校および市町村立小・中学校の状況調査を国に先んじて実施しました。

(調査対象 県立高等学校139校・特別支援学校36校、市町村立小・中学校1,222校)

この調査では、建築基準法に適合していない疑いのあるブロック塀などを有する県立高等学校が8校、市町村立小・中学校では全体の約三分の一に当たる343校、劣化や損傷などが生じている県立高等学校が12校、市町村立小・中学校が161校との調査結果が出ています。

私の所属する会派は県立浦和商业高校で調査をおこなうとともに、学校施設および県有施設、通学路に指定されている県管理道路におけるブロック塀等の安全対策、国への財政支援、また全国知事会においても早急に対策を講ずることを求める要望書を知事と教育長に提案、要望を行いました。

近年のブロック塀等はフェンスをはじめとした軽量の構造物や環境面に配慮して生垣などを利用して緑化している住宅も多く、県内では「生垣の助成制度」を設けることで緑化の推進を図っている自治体はいくつかあります。

全国各地で連れ去り事案の発生が後を絶たないことから、防犯面では刈り込み作業の際に児童の見守りになることや地域の交流にもつながる効果があると思いますので、鴻巣市でも新築や改築の機会に生垣の助成制度を検討してみてもどうかと感じます。



浦和商业高校 3, 4m以下の間隔で控え壁のないブロック塀



生垣による住宅の一例(緑化)



今年度は環境農林委員会に所属しています。

県議会環境農林委員会での発言

(請願8号 埼玉県の再生可能エネルギーの活用を増やすことを求める請願)

東日本大震災以来、エネルギー自給率の低下・電力コストの上昇・CO₂排出量増加などの課題に直面し、2014年の電気料金は震災前の2010年より家庭向けで25%、産業向けで38%も上昇しました。

日本の2016年のエネルギー自給率は約8.3%と他のOECD諸国と比較しても低い水準であり、今なお多くの資源を他国に依存しており、資源確保の際に国際情勢の影響を受けやすく、安定したエネルギー供給に懸念が生じています。

また、原油価格は常に国際情勢に左右され易く、国際エネルギー機関(IEA)は将来の原油価格は長期的に上昇すると予測しており、電気料金やエネルギーコストにも大きな影響を与えます。

電力依存度が全国2位である本県が地中熱などの再生可能エネルギーの拡大を図り、電力の安定供給に一層取り組む必要があることから採択すべきと発言し、趣旨採択されました。

交差点名の標識を設置しました

旧中山道(県道164号鴻巣桶川さいたま線)本町6丁目の旧埼玉懸信用金庫前に「東小学校入口」、人形3・4丁目に「人形」の地点名標識(交差点名の標識)を設置しました。

それぞれの地域からは御神輿の名前にもあり、日頃から親しまれている旧町名の「富永町」と「人形町」(人形町は東京の人形町と鴻巣の全国に2箇所しかない地名)が要望されていましたが、道路管理者(県)と警察の協議で住所登記名である「本町」や「人形」または「施設の名称」でないと設置が難しいとのことでした。

地点名標識は本町(南)など住所登記名の後ろに付ける(東)・(西)・(南)・(北)や安養寺(中)のような(上)・(中)・(下)、駅や図書館、学校などは許可されていますが、現在、国交省では地方創生や分かり易い案内表示という観点から観光地などの名称に変更されつつあるようです。

県内では、さいたま市内の国道17号「八幡通り」→「さいたまスーパーアリーナ入口」に、上尾市内の「愛宕」→「上尾運動公園」に、幸手市内の国道4号「内国府間(北)」→「権現堂桜堤」に交差点名称が変更されています。

地方創生や地域活性化のためにも、地元の要望から特色ある名称を実現することで郷土愛や世代を超えた住民意識が高まると思います。



移転した旧埼玉懸信用金庫前「東小学校入口」の標識



全国に2つしかない地名の人形町に「人形」の標識



埼玉県警察本部 警察犬センター



埼玉県警察本部が上尾市内に新設した警察犬センターを視察しました。この施設は県警本部が事件の捜査や警備などにあたる警察犬の飼育と訓練を行う直轄警察犬の育成現場となっています。

全国では昭和31年から警察犬を採用している警視庁をはじめ、26の警察本部が直轄警察犬制度を採用しており、本県では来年のラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピック会場などでの活躍が期待されています。

直轄警察犬を採用していない場合は、従来どおり民間が飼育や訓練をおこない、警察が必要に応じて出動要請をする嘱託犬となります。

警察犬は鑑識犬と警備犬に分けられますが、今回の直轄犬採用(警備犬は初導入)によってテロや爆発物の探知や警戒、警備が可能になります。

訓練士は県警内の公募で選ばれた現職の警察官であり、将来的には施設内に居住を予定しているとのことでした。

警察犬の犬種としては日本警察犬協会が指定している7犬種を採用しています。

私たちの暮らしの安心・安全がこのような形で支えられていることに改めて感謝を感じます。

* 日本警察犬協会が指定する7犬種とは・・・シェパード、ドーベルマン、エアデールテリア、ゴールデンレトリバー、ラブラドルレトリバー、ボクサー、コリー

プロフィール

昭和45年(1970年)9月鴻巣市本町生まれ/鴻巣幼稚園/鴻巣東小学校/鴻巣中学校/埼玉栄高校(サッカー部)/亜細亜大学経済学部国際関係学科卒/セントラルワシントン大学AUAP課程修了/鴻巣幼稚園保護者会副会長/鴻巣東小PTA副会長/鴻巣市商工会青年部第31代部長/第8回こうのす花火大会代表/鴻巣市消防団第2分団員(22年目)/鴻巣市議会議員2期/H27年4月埼玉県議会議員初当選/環境農林委員/公社事業対策特別委員/家族・妻・長女・長男・愛犬レオ

最後までお読みいただきありがとうございました